

# なつやま茶論

「期待の一年生」

竹本 雅昭



榎木 : 痛！！やめて～無理に引き抜くのは。

ドリル : 旦那、えらい痛がってるよってむちやくちや抜かんといてやって。

翁 : なんでやろな？いつもやったらキューン・キューンと調子えゝのにな。おかしいな。

ドリル : 私も格好よくチャッチャッと済ませたいのに、ほんまに難儀ですわ。ひょっとして私等 2 台使ってるから電力不足かも。

発電機 : なんかチラチラこっち向いて、私の悪口でも言うてんのと違うかいな。いつも通り頑張ってるのに。ハッキリ言うてくれたらえゝのに。

翁 : おかしいなあと思ってたら、ほれこのレバー全開にしたら馬力アップしたで。この人はうるさい音出す割に大人なしいから分からなんだわ。

発電機 : いつも乍ら勝手な言い草には全く呆れるわ、ブツブツ……。

ドリル : どうや榎木さんよ、もう痛ないやろ。だけどよ菌打ちの時はカンカンやられて痛いのと違うんかいな。

榎木 : それが素人の浅ましきやな。調子ようやられると、却って気持ちよくなって、もっともっとえゝ音出そうと言う気になりましてな、木琴にでもなった心持ちですわ。

椎茸菌 : 私達は榎木さんに守られて、全くの無口で禅僧のごとく……そして悟りを得た時には、とっても美味しい傘の花を咲かせますわ。

～終～



# 癒しの散歩道



春の気まぐれ訪問者

谷川 萬太郎

(1) スミレ色の花香る頃

小さな幸せ青い空に

ほころぶ春の匂いが

眩い若葉に降り注ぐ

明るい陽ざしを背に

喜び飛び交うツバメよ

眼をやれば咲く菜の花の

春風に素敵なおダンス

黄色も鮮やか花飾り

春のワルツも軽やかに

(2) 春の装いうらめしく

時には悪戯な心変わり

束の間の桜の華の宴も

春の嵐にその身を散らす

暴れ狂いてあざ笑う

純な心さえ砕け傷つき

変わり果てた憎き雨音

その裏でなく季節の花よ

聞きわけのない姿に

ただ儂さに悲しみ堪えて

